

活用効果評価結果

様式 V-3

公開版

平成24年度

中部地方整備局 新技術活用評価会議

新技術概要(申請情報)	開発目標	省人化、経済性の向上、安全性の向上	
	新技術登録番号	HK-100011-A	区分
	分類	コンクリート工 - コンクリート工 - 鉄筋工 - 鉄筋工	
	新技術名	鉄筋工事用ウォールスペーサーブロック コンクリート構造物施工での鉄筋の被りを確実に経済的に確保する。	
	比較する従来技術(従来工法)	ハート型スペーサーブロック	
新技術の概要及び特徴	本技術は、鉄筋コンクリート構造物の鉄筋の被りを確保するスペーサーの技術である。ウォールスペーサーは、テコの原理を用いて縦鉄筋と横鉄筋に固定する構造であり、ズレや脱落が確実に防げ、スペーサーの設置個数を最小にして鉄筋の被りが確保できるため、経済的かつスピーディーに施工できる技術である。		

活用効果評価	所見	落下やずれの可能性が低いため、用心のために設置していたスペーサーを減らすことができ、コストを抑えることができる。また、設置数を減らすことで施工時間を減らすことができる。	<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>— 新技術</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>従来技術より極めて優れる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>従来技術と同等</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>従来技術より劣る</td> </tr> </table>	A	従来技術より極めて優れる	B	従来技術より優れる	C	従来技術と同等	D	従来技術より劣る
	A	従来技術より極めて優れる									
B	従来技術より優れる										
C	従来技術と同等										
D	従来技術より劣る										
留意事項	・取り付ける鉄筋が細い場合は、スペーサー根元の鉄筋曲線部に余裕がある構造となり、ずれの可能性があるため留意が必要である。										

活用効果調査結果	対象工事	1	道路改良工事	関東地整(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
		2	防波堤ケーソン制作工事	北海道開発局(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
		3	樋門改築工事	北海道開発局(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
		4	用水トンネル建設工事	北海道開発局(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
		5	防波堤改良工事	北海道開発局(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
		6	岸壁耐震補強工事	北海道開発局(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
		7	橋梁下部工事	北海道開発局(従来技術)	従来型スペーサーブロック	H22											
	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7							項目の平均	従来技術(従来工法)	
	施工時評価	経済性	B	B	B	B	B	C	B							B	C
		工程	B	B	B	B	B	C	B							B	C
品質・出来形		B	C	B	C	C	C	C							C	C	
安全性		C	B	B	C	C	C	C							C	C	
施工性		B	C	B	B	C	C	C							C	C	
環境		C	C	C	C	C	C	C							C	C	
その他		-	-	-	-	-	-	-							-	-	
施工時評価点	B	C	B	B	B	C	C							B	C		
追跡調査	-	-	-	-	-	-	-							-	-		
総合評価点	B	C	B	B	B	C	C							B	C		

活用効果評価	項目	評価結果	内容	補足	判定区分
	成立性	技術として成立している	技術における機能、品質、性能などを実験や理論的なもの等での確認・証明の有無		技術として成立している 技術として成立していない
	優位性	従来技術より優れる	従来技術に対して優れている度合い		A 従来技術より極めて優れる B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る
	安定性	高い安定性を有す	各評価項目の判定結果による総合評価		高い安定性を有す 安定性に問題がない 安定性が確認されない
	現場適用性	特に広いとまではいかない	技術の優位性が高いものの件数の多寡		広い 特に広いとまではいかない
	区分	従現場の適用範囲が十分検証されていないが、従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有す。	-		-
	追跡調査の必要性	無	-		-
追跡調査					

活用効果評価結果

技術名称	鉄筋工事用ウォールスペーサーブロック (NETIS登録番号: HK -100011 -A)
申請者名	有限会社北海道ウォール
評価結果	全般的に申請情報の「活用の効果」と同様の評価となった。特に「工程」について、必要最小限のスペーサー設置個数で鉄筋の被りが確保できることから工程短縮が可能となり高い評価が得られた。また、現場にて高い安定性を有するとの評価が得られた。「設計比較対象技術」に指定。
技術の成立性	技術として成立している
従来技術に対する優位性	従来技術より優れる
評価の安定性	高い安定性を示す
現場適用性 (高評価の活用工事の割合)	特に広いとまではいえない
留意・指摘事項	・取り付ける鉄筋が細い場合は、スペーサー根元の鉄筋曲線部に余裕がある構造となり、ずれる可能性があるため留意が必要である。
従来技術	ハート型スペーサーブロック
評価対象工事	H22 道路改良工事【関東地整】 H22 防波堤ケーソン製作工事【北海道開発局】 H22 樋門改築工事【北海道開発局】 H22 用水トンネル建設工事【北海道開発局】 H22 防波堤改良工事【北海道開発局】 H22 岸壁耐震補強工事【北海道開発局】 H22 橋梁下部工工事【北海道開発局】